

高校の探究学習の実例

探究学習は一般の教科と異なり教科書などないため、高校現場では各校で試行錯誤しながら

進めている。これまで本誌で取材した高校での実践例と大学への期待をまとめた。探究学習支援の検討材料にされたい。

	宮崎県立都城西高校	東京都立松が谷高校	上野学園中学・高等学校	長野県飯田OIDE長姫高校	群馬県立伊勢崎清明高校	宮城県気仙沼高校																																		
概要	▶所在地：宮崎県都城市 ▶種別：全日制／普通科・フロンティア科／共学 ▶生徒数：1学年約240人	▶所在地：東京都八王子市 ▶種別：全日制／普通科／共学 ▶生徒数：1学年約320人	▶所在地：東京都台東区 ▶種別：全日制／普通科・音楽科／共学 ▶生徒数：1学年約200人	▶所在地：長野県飯田市 ▶種別：全日制・定時制／機械工学科・電子機械工学科・電気電子工学科・社会基盤工学科・建築学科・商業科(以上、全日制)、普通科・基礎工学科(以上、定時制)／共学 ▶生徒数：1学年約280人	▶所在地：群馬県伊勢崎市 ▶種別：全日制／普通科／共学 ▶生徒数：1学年約240人	▶所在地：宮城県気仙沼市 ▶種別：全日制・定時制／普通科／共学 ▶生徒数：1学年約240人																																		
主な進学先や利用入試(2022年度入試)	▶進学状況：国公立大は、宮崎大、鹿児島大、大分大、熊本大、福岡教育大、広島大、九州工業大、宮崎公立大など。私立大は、法政大、関西大、近畿大、西南学院大、福岡大、南九州大、宮崎国際大など ▶利用入試：一般選抜約6割、学校推薦型約3割、総合型約1割	▶進学状況：桜美林大、明星大、帝京大、専修大、日本大、杏林大、法政大、東洋大、亜細亜大、東京工科大、東海大、武蔵野大、国士館大、獨協大、高千穂大など ▶利用入試：一般選抜約5割、学校推薦型約2割、総合型約3割	▶進学状況：国公立大は、東京海洋大、信州大、群馬県立女子大など。私立大は、東京理科大、中央大、法政大、学習院大、日本大、東洋大、千葉工業大、帝京大、東京農業大、桜美林大など ▶利用入試：一般選抜約2割、学校推薦型約3.5割、総合型約4.5割	▶進学状況：国公立大は、公立諏訪東京理科大、信州大、長野県立大など。私立大は、金沢工業大、愛知工業大、千葉商科大、名城大、日本大、松本大など ▶利用入試：一般選抜約1割、学校推薦型約7割、総合型約2割	▶進学状況：国公立大は、群馬大、高崎経済大、群馬県立県民健康科学大、東京学芸大、群馬県立女子大など。私立大は、共愛学園前橋国際大、埼玉工業大、高崎商科大、青山学院大、獨協大、桜美林大、国士館大、駒澤大、東海大、大東文化大、日本大、法政大、神奈川大、明治学院大など ▶利用入試：一般選抜約3割、学校推薦型約5.1割、総合型約1.6割	▶進学状況：国公立大は、岩手大、宮城大、宮城教育大、弘前大、山形大、東北大など。私立大は、東北学院大、東北福祉大、宮城学院女子大、国際医療福祉大、東洋大、日本大、法政大、立教大、早稲田大など ▶利用入試：一般選抜約6割、学校推薦型約3割、総合型約1割																																		
探究に取り組む背景と狙い	地元志向の高まりがある一方で、進路選択が医療、福祉、看護系の学校に偏る傾向が見られた。そのため、探究学習を通してローカルとグローバルの両方の視野を広げ、地元の次世代リーダーを育成したい。	近年、「何をやりたいのか、わからない」という生徒が増え、進学先も偏差値と知名度を基準に決める傾向が見られた。探究学習を通じて他者と関わり、自分だけの問いを深め、それを進路選択につなげてほしいという狙いがあった。	指定校推薦で進学する生徒が多く、大学での学びとのミスマッチも見られる中、高校時代に生徒がやりたいことを見つけ、根拠を持って志望大選択、学部選択をできるようにする。	商業科では就職に有利なことから資格取得に偏った指導をする傾向があった。本来、商業教育は実務教育であり、社会との結びつきを強く意識すべきもの。地域で活動し、視野を広げ、社会で求められる力を育むことをめざし活動を始めた。	本校のランドデザインに掲げた「SEIMEI力」これからの社会をたくましく生きる力を育むことが目的。素直で控えめな生徒が多いため、予測不能な社会で自分の可能性を見つけ、力強く生き抜く力を身に付けさせる。	地域に大学がなく、卒業生の6割は地域を出ていき、戻らない。若者は地域に関心はあるが、戻ってもどう貢献すればいいかわからない状況だったため、気仙沼を「内」と「外」から支え続ける人材育成の一環として気仙沼とは切っても切れない「海」を軸とした探究学習を展開。																																		
3年間の内容と流れ	<p>【1年次】探究の進め方やSDGsについて学習。地域の課題を調査するグループワークにチャレンジ。 【2年次】SDGsを切り口にした地域課題の解決に、メンター企業と協力して取り組む。 【3年次】希望者は3年次に外部の発表会に参加。</p> <table border="1"> <tr> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> <tr> <td>「探究とSDGsの基本を学ぶ」「グループワーク」</td> <td>「地元企業と共にグループで地域の課題解決に取り組む」</td> <td>「探究ナビ」を使って課題の設定、調査の手法、分析・まとめの方法を学ぶ ・企業人の講演やカードゲームを通して、SDGsの考え方に学ぶ ・関心のあるSDGsのテーマごとにグループをつくり、企業のSDGsの課題を聞く</td> </tr> </table>	1年次	2年次	3年次	「探究とSDGsの基本を学ぶ」「グループワーク」	「地元企業と共にグループで地域の課題解決に取り組む」	「探究ナビ」を使って課題の設定、調査の手法、分析・まとめの方法を学ぶ ・企業人の講演やカードゲームを通して、SDGsの考え方に学ぶ ・関心のあるSDGsのテーマごとにグループをつくり、企業のSDGsの課題を聞く	<p>【1年次】探究の具体的な進め方やプレゼンテーションソフトの使い方を学び、1回目の個人探究にチャレンジ。 【2年次】大学が提供する探究プログラムに参加。2学期から自分で問いを立てて2回目の個人探究に挑む。</p> <table border="1"> <tr> <th>1年次</th> <th>2年次</th> </tr> <tr> <td>「探究の知識、スキルを学ぶ」「個人探究(1)」</td> <td>「大学が用意する探究プログラムに参加」「個人探究(2)」</td> </tr> </table>	1年次	2年次	「探究の知識、スキルを学ぶ」「個人探究(1)」	「大学が用意する探究プログラムに参加」「個人探究(2)」	<p>【1年次】「自己探究」がテーマ。マインドマップの作成や個人の興味に基づく探究学習に取り組む。 【2、3年次】自分の興味に応じてゼミに所属。チームでテーマを設定し、それぞれの方法で内容を深める。</p> <table border="1"> <tr> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> <tr> <td>「自己探究」</td> <td>「ゼミ形式での探究」</td> <td></td> </tr> </table>	1年次	2年次	3年次	「自己探究」	「ゼミ形式での探究」		<p>「まちじゅうが教室」をコンセプトとし、高校生が地域活動に取り組む中で、「地域を「愛」し、地域を「理解」して、地域に「貢献」する人財(たから)」を育てる。</p> <table border="1"> <tr> <th>1年次 基礎</th> <th>2年次 応用</th> <th>3年次 実践</th> </tr> <tr> <td>地域を知る</td> <td>地域で活動する</td> <td>地域の課題解決に向け行動する</td> </tr> </table>	1年次 基礎	2年次 応用	3年次 実践	地域を知る	地域で活動する	地域の課題解決に向け行動する	<p>【1年次】自分や自分を取り巻く地域社会とその現状を理解する 【2年次】課題設定と仮説検証を通して課題解決能力を学ぶ 【3年次】自分の新たな可能性を見つけ未来につなぐ 自己プレゼンテーション(小論文・面接)</p> <table border="1"> <tr> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> <tr> <td>「地域社会で働く大人にインタビュー」「探究型インターンシップ体験」</td> <td>「探究インタビュー」「興味・関心に基づく個人探究」</td> <td></td> </tr> </table>	1年次	2年次	3年次	「地域社会で働く大人にインタビュー」「探究型インターンシップ体験」	「探究インタビュー」「興味・関心に基づく個人探究」		<p>【1年次】「地域社会研究」を実施。地域の“海”を素材として、多様な地域課題への理解を深める。 【2年次以降】それぞれの興味に応じて個人研究。思考力、学び続ける意志、行動力等を育む。</p> <table border="1"> <tr> <th>1年次</th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> </tr> <tr> <td>「地域社会研究」「総合的な探究の時間」</td> <td>「課題研究I」</td> <td>「課題研究II」</td> </tr> </table>	1年次	2年次	3年次	「地域社会研究」「総合的な探究の時間」	「課題研究I」	「課題研究II」
1年次	2年次	3年次																																						
「探究とSDGsの基本を学ぶ」「グループワーク」	「地元企業と共にグループで地域の課題解決に取り組む」	「探究ナビ」を使って課題の設定、調査の手法、分析・まとめの方法を学ぶ ・企業人の講演やカードゲームを通して、SDGsの考え方に学ぶ ・関心のあるSDGsのテーマごとにグループをつくり、企業のSDGsの課題を聞く																																						
1年次	2年次																																							
「探究の知識、スキルを学ぶ」「個人探究(1)」	「大学が用意する探究プログラムに参加」「個人探究(2)」																																							
1年次	2年次	3年次																																						
「自己探究」	「ゼミ形式での探究」																																							
1年次 基礎	2年次 応用	3年次 実践																																						
地域を知る	地域で活動する	地域の課題解決に向け行動する																																						
1年次	2年次	3年次																																						
「地域社会で働く大人にインタビュー」「探究型インターンシップ体験」	「探究インタビュー」「興味・関心に基づく個人探究」																																							
1年次	2年次	3年次																																						
「地域社会研究」「総合的な探究の時間」	「課題研究I」	「課題研究II」																																						
テーマ例	Let's削減食品ロス～手元から作るみんなの幸せ～／お隣さんは外国人!?～外国人が住みやすいまちづくりを～／婚活と街のつながりを深く！～婚活につながる第一歩！～ など	列車の乗車率を各車両に分散させる方法は何か?／飲食店におけるレビューの影響／男性のヘアメイクはどのように発展してきたのか など	体罰の傾向と教育の変化(保育福祉ゼミ)／東京五輪後の台東区のホテルの今後(人文ゼミ)／持続可能な通学靴(芸術表現ゼミ) など	「子ども食堂」を通じた子どもの貧困対策・居場所づくり／駅前地下道の防犯対策／山間部の関係人口の拡大 など	コロナ拡大前後でライブの当選倍率はどう変わるのか／なぜ韓国コスメは人気なのか／女子サッカーに新しくできたWEリーグは盛り上がるのか／シャトレーゼと不二家どっちが人気 など	気仙沼の海水浴場の賑わいを持続させるには／外国人と私たちの違いから見る気仙沼の魅力／鳴き砂海岸の起源と生成 など																																		
体制・連携先	▶学内：探究プログラム開発推進委員会(7人)を中心に実施 ▶学外：県の中小企業家同友会と連携し、企業の協力を受ける	▶学内：各クラスの担任が面談を繰り返し「問いづくり」に伴走。「問いづくり」以降の調査、執筆は担任外の教員もサポート	▶学内：探究科が全体をデザインし、各学年の教員が指導 ▶学外：大学教員や専門職の社会人、地域住民のサポートを受ける	▶学内：推進委員会が全体を企画し、商業科の教員全員が指導 ▶学外：飯田市、松本大学との協定の下、地域のサポートを受ける	▶学内：ガイダンスセンター(教員8人)と各年次主任、探究係の教員が中心 ▶学外：地域と連携した教育活動をコーディネートするNPOが協力	▶学内：研究企画部が全体をデザインし、各学年団の教員が指導 ▶学外：大学(東北大、宮城教育大、東北工業大、宮城大など)、地元企業、復興支援のNPOがフィールドワークの受け入れやアドバイスを																																		
成果	▶メンター企業からのフィードバックを受けて内容を改善するので、回を追うごとに自信が付き、自分の言葉で伝えられるようになった ▶教科の授業でも、教員の問いに対して情報を解析し、論理的に答えるようになっていく。教員も「なぜ?」から始まる探究的な授業への転換を試行錯誤中	▶生徒の進路意識が変化し、やりたいことを見つけて将来の夢を実現するために進路を選択する生徒が見られるようになった ▶教員が生徒の「問いづくり」に関わることで、生徒の関心事を理解し、それをふまえた進路指導ができるようになった	▶生徒が、何が好きでどんなことをやりたいのか答えられるようになった。その結果、志望理由を根拠を持って言えるようになり、総合型選抜で大学に挑戦する生徒が増加	▶生徒の自己肯定感や非認知能力に対する自己評価が伸びた ▶地域社会に参画する意識が芽生え、以前は3、4割ほどあった就職した卒業生の3年以内離職率がほぼゼロに	▶自らの興味・関心をベースに、関連する周辺分野の調査や分析をすることで、視野が広がり、生徒の志向により合った進路選択ができるようになっている ▶生徒同士の相互評価が、学びを深めるきっかけにもなっている	▶地域の課題解決に向けて、ボランティアなど活動する生徒が3分の1に上るようになり ▶生徒が地域の中学生の探究をサポート ▶進学後の将来を考えて進学先を選ぶ生徒の増加、進学先の多様化(海外含む他地域の大学進学)																																		
課題と大学への期待	理工系の大学こそ高校の探究に協力を 探究のテーマにサイエンス系を選ぶ生徒が少ないのが悩みです。理工系の学部を持つ大学と連携して、理系の生徒のニーズを満たせる探究をしたい。探究で培われた興味・関心と、大学の研究との結びつきが具体的にイメージできるようにすれば、生徒の大学選びも変わってくるでしょう。	探究支援の窓口や探究プログラムの提供を 大学が求める生徒を送り出すためにも、大学には探究学習での経験が、大学入学後はもちろん、入試でも役立つことをもっとアピールしてもらいたいと思います。探究学習支援窓口の設置やオープンキャンパスでの参加型探究プログラムの実施などがあると、高校で探究学習を進めやすくなります。	高校生と研究者をつなぐオフィスを設けて 探究学習には、専門家の助言が欠かせません。メールやオンラインでも構わないので、生徒が大学の先生に気軽に質問できる、高校生向けのオフィスパワーがあればと思います。「○○」について探究したい人募集!」のような形で大学の研究室を生徒に広く広報のしかたもあるのではないのでしょうか。	多様な考えに触れられる交流機会の増加に期待 高校時代のさまざまな年齢、立場、考え方の人々との交流は、多様性を受け入れる土台を築くことにつながります。実際、「学輪IIDA」*1での大学の先生、大学生との交流は生徒にとって貴重な時間になっています。一方通行の出席講義ではなく、教育的な交流機会をぜひ増やしたいです。	生徒の疑問を受け付ける窓口の設置を 地元の大学にインターンシップを受け入れてもらっているほか、キャッチコピー講座や教員ワークショップで高崎商科大学のサポートを受けています。今後は探究で生まれた生徒の疑問に、専門家が対応していただけてうれしいです。こうした要望にワンストップ対応する窓口を設けることをぜひ検討してください。	べき論や押し付け合いではない高大連携をしたい お互いが「高校(大学)がまず○○すべき」と押し付け合っていると、なかなか前に進みません。メンツを捨てつつ気軽に声をかけ、見学したり意見を交換したりできる関係を築きたいと思っています。大学生からのアドバイスも、生徒の刺激になるでしょう。学生・生徒の交流の機会を設けていただければと思います。																																		

*1 フィールドワークスタディなどで飯田市と関わった県内外の大学・教育機関による連携会議。大学教員と大学生、地元の高校生が参加するフィールドワークを主催
*2 探究的な学びの普及・推進を目指した教育コンソーシアム「みやざきSDGs教育コンソーシアム」(Miyazaki SDGs Education Consortium)が実施するフォーラム